

(1) 英語活動の基本的な考え方

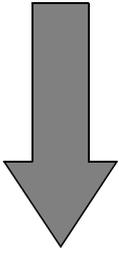
- ・ 英語に慣れる，親しむ，楽しむ活動を行う。
- ・ 国際理解教育の一環として行うもので，中学校の外国語教育（英語）の前倒しにならないように配慮する。
- ・ 覚えることを強要しないで，体を使ってのゲームや遊ぶの要素を取り入れながら，繰り返し行っているうちに語句や表現を自然と覚えてしまうような活動を仕組む。
- ・ 音声を中心とした「聞く」「話す」を基本の活動をとする。自分の意思を伝達するために身振り，手振りを加えた音声言語を中心とした活動を行う。小学校段階においては，文字と音声の同時指導は子どもの負担になる。英語の音に十分に慣れ親しむ。
- ・ コミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を大切にする。
- ・ 英語という言語を通して異文化やものの見方・考え方に触れることができるようにする。
(英語活動を単なる言葉のやりとりで終わらずに，国際感覚を養う奥行きのある教育活動にしていく。)

(2) 指導にあたっての留意事項

- ・ 英語の雰囲気浸らせるため，簡単な指示や誉め言葉はできるだけ英語で伝えるようにする。全て英語で授業を進める必要はないが，この時間は英語で活動する時間だという気持ちで，自ら英語を楽しみ，次第に日本語を減らしていく。
- ・ A L T の英語を逐一日本語に訳さない。全部分からなくても，大体何を言っているのか分かったという経験をさせる。
- ・ 英語を多く聞く機会を設ける。(授業，その他)
- ・ 英語の音とリズムに慣れさせるよう工夫する。
- ・ 英語の発音をカタカナに置き換ええない。小学校における英語活動は音声を中心に行うことが原則である。(英語の音をそのまま表すことはできず，カタカナで表記することにより弊害が起きる)
- ・ 無理に覚えさせない。
無理に覚えさせると英語嫌いをつくってしまうことになる。日常的なあいさつややりとりの言葉は，活動の中で何回か使っているうちに，次第に覚えていく。その時間内に覚えさせなければならないと考える必要はない。
- ・ 誤りは細かく訂正しない。
何を言ったのか分かる程度の誤りなら，教師が言い直して，正しい英語を聞かせるだけ十分である。できるだけ子どもが自分で気付いて次から正しく言えるように指導する。また，英語に自信がない子どもに無理やりに発話させることを避け，やさしく楽しい活動を工夫して，少しずつ参加させ表現させるようにする。
- ・ 文字の指導は行わないが，できるだけ目にふれる機会を多くし，自然と英語の文字に慣れ親しませるようにする。(学習環境の整備)
- ・ 一斉授業だけでなく，いろいろな学習形態を工夫する。
小学校では英語を知識として学ばせるのではなく，様々な活動を通して英語を体験させることが大切。活動するための空間の工夫(体育館や運動場)や学習形態の工夫(個人やペア，グループ等)が必要である。

(3) 授業の基本的な流れ

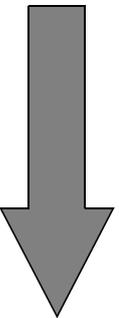
アクティビティ 1



- ・ 指導計画の初期の段階では、聞くことを中心とした活動を多く取り入れ、十分にしっかり聴かせる。
- ・ 発話することを急がない。
- ・ デモンストレーション，チャンツ等。



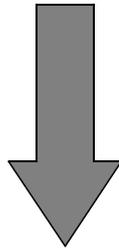
アクティビティ 2



- ・ 指導計画の後期では、子どもたちの話す（発話する）ことを中心とする活動や子どもたち同士や子どもとALT等とのコミュニケーションを生かした活動を取り入れる。
- ・ 1 単位時間の中に変化のある活動を多く取り入れ、形を変えて繰り返し練習する。（疑似体験の活動やゲーム等）
展開によっては、アクティビティ 1 のみということもある。



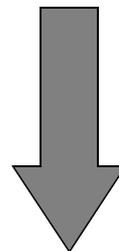
まとめ・ふりかえり



- ・ 本時のまとめとして本時の新しい表現や単語を全員で繰り返したり、歌やチャンツでを行う。今日の学習をふりかえり，自己評価させる。



おわりのあいさつ



- ・ クラス全体で終わりのあいさつをする。
- ・ 学習の進度に応じていろいろな表現に慣れるようにする。



